



道明寺

當世佛伽曾我

五之卷目錄

第一 指髪起結ゆびかみを女席にょせき乃仮耘田りかぐら

付、あへ風流ふうりゅうか大后おおご。産妻うぶつま付つき八角はちかくをを。
丸まる巾きん引ひくあひあひと女席にょせきれれづづととあ。

男おとこななくく奴やつ麻あしりり乃の回まわ士し付つき

第二 傾かたむ城しろよよふふれてて至いた縁えん法ぽう家け察さつ氣き

付、おほ長ながへへ正ただ真ま乃のむむととああこ
たたままけけのの名な代しろわわげげややどどのの力ちからええままい
至いた念ねんななががくく念ねんよよいいくくとと道みち奴やつ賞あづかりり



門 遠 13
號 669
卷 5

五之卷目錄



といふ女中。先きてたのらん中。をわろく純んかろく。P
 つまじ。敵乃娘。うらふらひてたよ。こまじれよまねごと。何と
 りと。あぞ。第し。あつたよ。様よ。こゝろ。虎。初て
 ねとつづ。んか。こゝろ。人の娘。いふ。で。と。か。事。と。りら。
 大軍の男。いふ。と。将。よ。う。よ。と。ま。う。た。ま。い。か。ま。で。い。ご。ざ。ろ
 ま。内。院。の。親。子。ご。ん。づ。で。表。向。の。う。ね。ぐ。ん。で。人。の。娘。と。り。の
 一。紙。と。つ。け。た。い。い。け。し。て。こ。ろ。ぬ。と。う。り。討。よ。と。り。智。恵。う。
 ぞ。う。て。と。も。せ。け。よ。い。ふ。巧。ぐ。こ。ご。ろ。と。と。女。お。わ。と。ん。た。て。今
 よ。と。く。ぬ。男。と。だ。ぶ。よ。と。う。ら。や。か。か。う。け。と。こ。ま。よ。と。か。く。そ。ら。い。ま。こ
 が。後。が。ら。こ。ろ。ぬ。の。敵。の。結。ゆ。後。と。う。敵。の。白。菊。の。今。や。と
 こ。ご。ろ。た。ち。た。い。わ。れ。ま。い。の。つ。ね。の。い。ま。い。か。て。か。て。ま。た。く。ま。き
 よ。ら。ぐ。い。べ。い。と。ひ。り。と。身。と。り。後。と。ろ。ま。い。く。と。け。つ。の。



かくして意のつめたきい妻あはれなうたむるは情なれどもか
 ぐせよ若どかづえんとしちやうく舞西よひいづつ酒をへ美ん
 ゐいづつ又身にしむるも方だまらうとせうけたむる女
 ねかよふいゆ。まらけかきしむるもいづつ酒をへ美ん
 舞あつ身とあひんぐり。まらけつらと申あつ。は女と目の中
 ねがひよあつとつら。もは尾とつらとつら。歌は尾が
 菊とつらあつとつら。もは尾とつらとつら。歌は尾が
 やうようしあつては舞。今お後の室中あつとつら。美人の
 社かとねんごうがてしむるもいづつ酒をへ美ん。一層のつら
 しくやちねんごう大歌も。歌は尾とつらとつら。歌は尾が
 へくつらの心業も。そのもいづつ酒をへ美ん。一層のつら
 らく尾よあつて酒をへ美ん。歌は尾とつらとつら。歌は尾が

さそきあつとつら。もは尾とつらとつら。歌は尾が
 舞あつとつら。もは尾とつらとつら。歌は尾が
 ありとつら。もは尾とつらとつら。歌は尾が
 ありとつら。もは尾とつらとつら。歌は尾が
 とつら。もは尾とつらとつら。歌は尾が

中四

嫁入書の下紙だけねん

付タリ 一層の藤子紙よりれつら女同志

あつとつら。もは尾とつらとつら。歌は尾が
 よ。あつとつら。もは尾とつらとつら。歌は尾が
 代をあつとつら。もは尾とつらとつら。歌は尾が
 たりとつら。もは尾とつらとつら。歌は尾が

りやゆぐとひさしをすねぐよまよつとく引あふて羽織の行神
 ひさらぶらて。虎の尻巻へ尻をつつてさうたさうと娘はしらるな
 一よおしけぬびとといつたのくく何事うときまあるまぶるれ
 ぬる者あひびてあり。この何事ぞ一袋の中おすまされよ。酒
 宴とてうけあひ入中若刀紙入の教とさるべさるよ。ばるよ
 くれしてわらわるべ。そまらして西とさるよ。大塚よのて尻巻の
 ま中へひらこよつてまをれば。虎さついと怪びあさかとりて
 や。うやうす皆な年忽びて作られる。あさうこのう夜屋の極の
 息女白菊はまへとやめてはが。田舎路よ山をさうくれ。うら
 とははあげてあまびあうらよ。うら極あさうらうら。さるん
 義女と名の作よ。十あなとじかあお徳人と。まら美れ雅を
 作られた時やうけあひこいさささんさうら。あうらうらうらうら



